

『許せない軽犯罪』

文 伊藤公一

text by Kouichi Ito

今年は拙院にとつて創業80年というメモリアルイヤーである。親子3代の区切り良く、表参道の地で、祖父が創業し20年。父が引き継ぎ40年。そして小生が継承し20年目となった。

そこで現在までの病院の足跡を形に残すべく、記念誌の制作に追われている。その内容は文集ではなく、写真集にしようと思つた。膨大な資料と格闘している。そのなか、味わい深いところは、当然に古いアルバムである。色褪せた写真の中でポーズをとる面々は皆が鬼籍に入っているわけで、特に戦禍を超えて残存し続けたスナップには、心底しみみりとさせられる。いかに大変な時代であったのかと想像をめぐらせては、先人たちに哀悼の意を捧げている。

とはいえ、非売品でもある、この手合いの記念書籍は極めて私的な性格であり、ページをめくり、誌面に郷愁を感じるのには、当然のこと、関係者だけであろう。そして日時が経つにつれ、価値が上がってくるものと思う。

そのようなセンチメンタルな気持ちで思い巡らせている最中に、極めて不愉快なニュースが飛び込んできた。「名古屋市の愛知県図書館は5月2日、所蔵する県内の小中高校の学校史や記念誌68冊で、計510ページが故意に破られ、切り取られていたと発表した。そこで同館は県警中署に、器物損壊容疑で被害届を出した。」

被害が多かったのは、運動会や、部活動の写真であつたらしい。

また、名古屋市立図書館でも同様の被害が明らかとなつた後、三重県、富山県、石川県、福井県の図書館でも事件が起こつた。そして、これらの状況報告を受け、日本図書館協会が緊急調査を行なっている」

学校史である卒業アルバムは、企業の歴史を編纂した書物同様に、そこに関係した多くの人間にとつて、若かりし頃の思い出が詰まつた貴重なものだ。そこで、自宅に大切に保管している人が多いとは思ふが、なかには引越した際の際に紛失してしまつた人もいるだろう。

そうして、卒業アルバムを持っていない人々のために、過去には、卒業アルバムは、地域の図書館で誰でも閲覧可能な状態にあつたそう。しかし近年は、個人情報保護の観点から、誰でも閲覧可能という状態ではなくなり、多くの図書館では、卒業アルバムの閲覧は制限されている。

ただし、一部の図書館では、卒業アルバムの閲覧制限が緩く、そこで、特定のページが切り取られるという不可解な事件が起こつたようだ。

事件に対しては、アルバムに映る同窓生にいじめられたり、ふられたり、裏切られたりした人間が、想い出したくない過去を消し去ろうとしたとか、

今でも好きなのに全く振り向いてくれない異性の写真を盗んだとか、認知症に罹患したお年寄りの行動など、多くの推測が挙げられてはいるが、実際には、いわゆる愉快犯の仕業で、デリケートな動機を持ち合わせずに行つたものと推察する。

そして、犯人は捕まらずに、事件は迷宮化してしまふ気もする。

さらには犯人が捕まつたとしても、それほど重罪には科せられないものと思ふが、これは罪深い犯罪に思ふ。

我々の病院誌が図書館や公文書館に納まることはあり得ないが、誰かに、心血注いで作った自分たちの歴史の証明を踏みじられれば、決して許さないのであろう。

Profile

1958年生まれ。伊藤病院3代目院長。北里大学医学部卒業、東京女子医科大学大学院修了。医師になって以来、国内外にて一貫してバセドウ病、橋本病、甲状腺癌など甲状腺疾患に対する診療と研究にひたすら従事。東京女子医大、筑波大学院非常勤講師。日本医科大学、了徳大学客員教授。日本内分泌外科学会、日本甲状腺外科学会理事。厚生労働省診断群分類調査研究班班長。伊藤病院www.ito-hospital.jp 大須診療所(名古屋分館)www.osu-shinryoujyo.jp

